令和３年度
北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO．９【号】

# 遊びの中に見える園児のやさしさ

**附属函館幼稚園園長　外崎紅馬**

時折、園長室にピザがデリバリーされる。もちろん、本物のピザ業者からではなく、園児のＡ君による紙製の手作りピザである。園長室のドアをうっかりすると聞き逃してしまうぐらい小さな音でノックし配達に来たことを伝えてくれる。取り揃えているピザの種類も豊富で、「どれがいいですか？」とオーダーを取り、「じゃあ、これください」と言うと、「そのピザはナスとタマネギとピーマンのピザです」と説明してくれる。
親切丁寧がモットーなのである。

ところで、園長といっても、私は園と大学の業務を兼務しているため、常に園にいるわけではない。附属幼稚園の園長だからといって、大学の業務が免除されているわけではなく、学生への講義はもちろん、大学内の各種委員会や所属する専攻の種々の業務、それに付随する会議やミーティングなどがある。また、大学内においても園長という立場で求められる業務や会議があり、その他に学外で連携している各種機関・団体との打ち合わせや関連業務もある。

そのような状況のため、日程が立て込み出席できない会議や出席しても途中退席を余儀なくされる場合もある。ある日、大学の事務から書類提出の催促を受けた。寝耳に水だったが心当たりはある。催促のあった提出書類の内容から、欠席した会議で決まったものだと察しがついた。こういう時、「聞いていない」とあたかも自分に責任はないかのように言う人がいる。しかし、それは「聞いていない」のではなく、確認を怠り「訊かなかった」というほうが正しい。非は自分自身にある。

確認を怠ったことにちょっと落ち込んでいると園長室をノックする音が聞こえた。ドアを開けるとＡ君である。「どれがいいですか？」「じゃあ、これください」といつものやり取りをする。しかし、私の様子が普段と少し違うことを察したのか、Ａ君は「もう１枚、いいですよ」とやさしさをみせた。落ち込んでいるときにやさしさは身に染みる。ダンボールで作った自作の宅配カーで去っていくＡ君の後ろ姿が、頼もしくもかっこいいのである。